

議案・報告

【 市長提案説明・市長報告 】

本日は、第4回市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位には、年の瀬を迎え何かとご多用の中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

定例会の開会に当たり、提出いたしました諸案件の説明に先立ちまして、現在の市の情勢等について、申し述べたいと存じます。

この秋には、くわな商工まつりや民間事業者によるイベントが市内各所で開催され、気候のいい日が続いたことも後押しし、多くの人が行き交う姿を目にいたしました。10月22日に開催されました桑名時代まつりには、現在、本多忠勝と千姫の大河ドラマ誘致に向けて、関係自治体と連携しながらPR活動を進めておりますが、姫路市・常総市・文京区の皆様にお越しいただき、時代行列に参加していただきました。

桑名のまちが多くの方々の笑顔と声で包まれ、活気あふれる空気を肌で感じ嬉しく思ったところでございます。

また、11月4日と5日には、柿安コミュニティパークで三重県最大級のマルシェと音楽のイベント「GOOD JOB MARKET」が初開催されました。これまで、柿安コミュニティパーク付近でイベントが開催されますと、その周辺で渋滞が発生するという課題がありましたので、木曾川下流河川事務所などと調整を行い、揖斐川河川敷を臨時駐車場として活用したことで、周辺での交通渋滞の緩和につなげることができました。

今回は、揖斐川河川敷を臨時駐車場として大規模に活用した初めての試みであり、まちなかの駐車場不足という課題解決に向けた成功事例となりました。

そして、まちの活気の余韻が残る中、しばらく暖かな日が続いておりましたが、11月に入ると一気に気温が低下し、冬の訪れを感じております。現在、12月に入り、早いもので令和5年も残すところあとわずかとなりました。

振り返りますと、新型コロナの脅威が収束に向かい対応にも一定の目途が見えかけた昨今の今頃、今度はエネルギー価格の高騰・物価上昇という新たな課題が重く申し掛かってきました。

息をつく暇もなく次々と迫り来る課題に、この一年間も奔走してまいりました。

思い返してみると、私のこれまでの市政運営は、常に危機的状況への対応の連続であったと改めて感じるところでございます。

市長就任早々、まず最初に突きつけられたのは、危機的な財政状況でした。組織は、不祥事の頻発により、委縮・疲弊しており、各種団体との関係性ととも、早急に立て直す必要性を感じたところでございます。

一方、まちに目を向けましても、地域医療や救急医療体制の確保という喫緊の課題に加え、地域では高齢化が進み、中長期的な視点で、住民自治のあり方も問われておりました。

また、中心市街地では、私が高校時代を過ごした頃の駅周辺の賑わいは消え、老朽化した駅舎が、東西のまちを分断しておりました。

そして、突如として現れた新型コロナウイルス感染症の脅威や、急激に人口減少・少子高齢化が進む社会への対応など、数え上げれば切りがありません。

それでも私は、「桑名のまちを良くしたい」との思いで、目をそらすことなく全ての課題に一つ一つ丁寧に向き合い、一步一步着実に対応を進めてまいりました。

真っ先に手掛けたのが「財政健全化」の取り組みでございました。

就任直後、“このままでは予算が組めなくなる恐れもあります”と、財政部門の担当者から報告を受けた危機的な財政状況に、予算のカットや使用料の見直しなど、厳しい取り組みも行わざるを得ませんでした。

とはいえ、単に予算を削るのではなく、公民連携の手法により、民間事業者が持つノウハウを最大限活用することで、税の負担を最小にしながら市民サービスの質を維持・向上させてまいりました。

とりわけ、民設民営により誕生した桑名市健康増進施設「神馬の湯」におきましては、市の直営では成しえなかった賑わいが生まれております。

今では、本市の財政は見事に危機を乗り越え、継続した改革により蓄えた財源を、人口減少対策をはじめとする次なる課題解決に、有効に活用できる状況となりました。

次に、「市民の皆様一人ひとりに寄り添う」取り組みであります。

「桑名市総合医療センター」の整備におきましては、新病院の誕生を機に、医師会、地域の医療機関、保健所などとの連携がより緊密になったことで、地域の皆様が日々安心して医療を受けることができるようになりました。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症の対応におきましては、重点医療機関として感染拡大に伴う感染症患者の受け入れや医療の提供に貢献し、無くてはならない存在でありました。

なお、新病院の開院前後における医療機関の新規開業件数は、合わせて19件を数え、地域医療の連携がしっかり構築された証であると考えています。

また、介護の分野では、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けるため、全国に先駆けて「地域包括ケアシステム」の構築に取り組み、とりわけ介護予防に重点を置いた様々な事業を展開してまいりました。

その成果といたしまして、厚生労働省の「介護保険の保険者機能強化推進・努力支援交付金」では、桑名市は、高齢者人口1万人から5万人規模の自治体614の中で、令和4年度の評価発表で全国2位、令和5年度も10位となる高い評価をいただいたところでございます。

他にも、「福祉なんでも相談センター」を設置し、介護や障害、子育てなどの様々な福祉分野の相談に総合的に対応することで、“どこに相談すればいいかわからない”という市民にとって切実な問題を解消したところです。

また、イオンモール桑名内に子育て支援センター「にこにこ」を設置し、お買い物と合わせて利用していただける環境を整えるなど、何よりも市民の皆様寄り添うことを一番に考えてまいりました。

次に、「未来を担う桑名の子どもたちの成長を育む」取り組みであります。

2016年に開催されました「ジュニア・サミット in 三重」では、G7各国を代表する若者が桑名に集まり、議論が行われました。そのレガシーが引き継がれ、学校における積極的な英語学習やワールドランチなど、子どもたちの学びの礎となっております。

また、学びの環境の整備として、いち早く導入を進めた小学校へのエアコン設置やコロナ禍においても活躍することとなったタブレット端末の配備など、できることから取り組みを進めてまいりました。

次に、「まちづくりを支える」取り組みであります。

桑名駅周辺整備では、桑名駅自由通路と橋上駅舎の整備により、長年の課題であった桑名駅の東西分断という課題が解消されました。

一方、駅西側で進めております土地区画整理事業につきましては、公民連携手法を用いた中断移転住宅「桑名駅西コラボハウス」も活用しながら、現在も事業推進を図っております。

まだまだ事業区域内にお住まいの方々には御不便をおかけしておりますが、幹線道路の整備も進みつつあり、駅西口周辺を中心に、まちの姿も目に見えて変化をしてまいりました。

また、「地域からまちづくりを支える」取組みとして、新たな地域コミュニティ組織「まちづくり協議会」の構築を進めてまいりました。

各地区で地域の課題解決に向けて、様々な団体や市民の皆さんが連携・協力し、特色のあるまちづくりが進められております。

まさに、私が理念とする「全員参加型市政」のモデルとなる取組みであり、地域コミュニティの自主性と判断により課題解決を図ろうとするものでございます。

目まぐるしく変化する社会に敏感に反応し、変わることを恐れず挑戦を続けたことで、桑名市は、私の理想である全員参加型市政で「本物力こそ桑名力」を目指すまちへと、着実に進化し続けていると感じているところであります。

私といたしましては、「この好循環を止めることなく、しっかりと持続させていかなければならない」と、考えているところでございます。

それでは、ここで改めまして、持続可能なまちづくりの着実な推進を図る「3本の柱」、及び、本市が目指す将来像の実現を推進する「重点プロジェクト」から、現在の事業の進捗状況等、その一端を申し述べたいと思います。

まずは、1つ目の柱『防災力の強化』であります。

消防本部の高台移転などの「消防庁舎等再編整備事業」につきましては、複合化による効率的な施設であることや市民に開かれた施設であることなどを整備方針として、大山田地区市民センター周辺エリアに整備を進めているところでございます。

本年3月に着工し、先行して整備を進めておりました立体駐車場につきましては、「光精工コミュニティプラザ駐車場」として、今月1日に供用を開始いたしました。

本体施設につきましては、現在、旧大山田地区市民センターと消防団詰所の解体を終えて開発工事に入っております。

年明け2月からは、建設に取りかかる予定となっており、令和6年度中の完成に向けて、引き続き整備を進めてまいります。

次に、2つ目の柱である『スマート自治体への転換』であります。

D X（デジタルトランスフォーメーション）の取組みにつきましては、全国的に注目を集めている「Chat GPT」をはじめとした、生成AIの業務活用について検討を進めているところでございます。約270名の職員が「Chat GPT」の業務活用を始めており、文書作成や要約のほか、事業の企画立案のアイデア出しなど、様々な領域での活用が見込まれ、業務の質の向上と大幅な効率化が図られるものと期待しております。

また、来年1月から、戸籍・住民登録課の窓口業務を大幅に見直し、転入等の手続きの際に、複数の窓口に行く必要のない「書かないワンストップ窓口」を実装する予定でございます。

デジタル化に合わせて業務の改革も進めることで、市民サービスの利便性向上にしっかりと取り組んでまいります。

また、全国的に公共交通への対応が大きな課題となる中、本市におきましては、人口減少・少子高齢化社会においても移動に困らない住みよいまちづくりを目指し、まちの移動を便利にする仕組み「Ma a S」の推進を図っております。

先の議会において補正予算をお認めいただいたところですが、国の補助金の採択を受けた自動運転「レ

ベル4」の社会実装に向けた実証実験を今月19日から行います。

内容につきましては、「ナガシマスパーランド駐車場」を起点として、「なばなの里」までのルートにおいて、バスタイプと小型の異なる2台の車両で、自動運転の技術特性や地域の移動需要を検証いたします。

加えて、「運行管制システム」を活用し、利用や運行の状況を遠隔からリアルタイムに監視することで、交通事業者が事業として運用するために必要な技術要素も、合わせて検証を行います。

このほか、年明けからは、AI活用型オンデマンドバス「のるーと桑名」の本格運行に向けた実証実験も、実施してまいります。

また、本市の「SDGs」推進の取組みのひとつとして、子どもたち向けのSDGs体験啓発事業「SDGsキッズスタートアップアドベンチャー」が、先月末に、地域の企業の皆様のご協力もいただきながら、本市をフィールドに開催されました。

私も、参加した子どもたちに、桑名のSDGsの取組みについて特別授業をさせていただきました。真剣な眼差しで私の話しに耳を傾け、自らの考えたアイデアや意見を活発に発表する子どもたちの姿を、大変頼もしく感じたところでございます。

また、本市における脱炭素化「ゼロカーボンシティ実現」に向けた取組みにつきましては、出来ることから着実に歩みを進めております。

地球温暖化が「地球沸騰化の時代」とも言われるようになる中、今後は公共だけではなく、市民の方や事業者の方々とも一体となって取組んでいかなければなりません。

そこで来月には、ご家庭の皆様や事業者の皆様にもご協力をいただきながら、本市からの二酸化炭素排出量の可視化の実証実験を実施してまいります。

この実験で得られたデータを検証、分析することで、今後の脱炭素施策に有効活用し、GX（グリーントランスフォーメーション）の更なる推進に努めてまいります。

持続可能な社会の実現を図るため、積極的に新たな技術を活用し、既存の概念にとらわれない豊かな発想をもって、地域が抱える課題から地球規模での対応が迫られている課題にもしっかりと取組みます。そして、時代にあった“スマートなまちづくり”を進めてまいります。

次に、3つ目の柱『安定した財政基盤の確立』から、「企業誘致の推進」であります。先月末、「既存企業との関係強化」及び「新規企業の誘致活動」を目的として、台湾へトップセールスに行ってまいりました。

主な訪問先として、本市に所在するUSJC（ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社）様の親会社であるUMC（ユナイテッド・マイクロエレクトロニクス・コーポレーション）様では、本社と先端工場の見学をさせていただき、ジェイソン社長とも5月以来となる再会を果たしました。

更なる親睦を深めるとともに、USJC様へのサポートをお約束して、追加投資への働きかけを行ってまいりました。

そして、台湾のシリコンバレーとも呼ばれる産業都市であり、半導体工業団地を中心としたまちづくりを展開する新竹市では、「新竹サイエンスパーク」の視察を通じて、当地域の行政組織が、国、県、市の許認可権限を統一的に管理していることを確認しました。

商業活動の促進を図るための土地貸付制度や、団地内での寮や学校建設・運営など、環境整備において徹底的な取組みを実施している様子に触れ、国が産業を牽引している姿勢に感銘を受けました。

これらの取組みは台湾の半導体業界の強さを示すものであり、大変印象的でした。また、市内企業であるヒルカワ金属株式会社様の取引先企業も見学してまいりました。

同企業では、台湾でも少子高齢化と人口減少が進む中、労働生産性を下げない取組みとして工場のDX

化が進められておりました。いわゆる最先端の半導体製造工場ではなく、中小企業におきましても、日本ではほとんど導入されていないデジタルファブリケーションが導入されている状況でした。

視察に同行いただいた桑名商工会議所の方も交えて、「桑名市内企業の労働生産性向上」についても意見交換を行い、今後の支援にも活かしてまいりたいと考えております。

今回の視察を通じ、改めて本市の持つポテンシャルの高さと、トップ同士が直接の繋がりを持つことの重要性を認識いたしました。

「世界に開かれたまちづくり」を目指す本市としては、今後も目線を高くし、世界を見渡しながら、自治体経営を行う必要があるとの思いをより一層強くしたところであります。

また、企業誘致の基盤でもある本市の「地理的優位性」を更に高めるべく、事業化に向けて取組みを進めてまいりました東名阪自動車道の「大山田パーキングエリアでのスマートインターチェンジ化」につきましては、9月に国の準備段階調査箇所にて採択されました。このことは、実現に向けた大いなる一歩と捉え、大変嬉しく思っているところでございます。

10月には関係機関を交えた第1回目となる準備会を開催したところであり、次のステップである連結許可に向け、関係者の皆様と、引き続き、全力で事業を推進してまいります。

また、多度南部産業誘導ゾーンへのアクセス道路網の整備として、スマートインターと一体的整備を計画しております「都市計画道路桑名北部東員線」につきましても、国庫補助金を活用し、事業進捗を図る補正予算を今議会に計上いたしました。今後、スピード感をもって整備の促進を図ってまいります。

続いて、『重点プロジェクト』の中から、「多度地区小中一貫校整備事業」であります。

関係者の皆様方の多大なるご尽力を賜わり、先月26日に起工式を執り行ったところでございます。

現在、樹木の伐採等の準備工がほぼ完了しており、事業用地が丘陵地のため、今後は造成工事を先行した後、来年度に校舎等の建築工事を行う予定でございます。

加えて、多度学園開校を機に、新しい校歌をAIと共に作成しております。

校歌に込めたいキーワードやイメージを多度地区の皆様を対象に公募を行ったところ、150名余りの方より700以上の応募がございました。

これらをもとに、国立研究開発法人理化学研究所様、学校法人電子学園iU情報経営イノベーション専門職大学様が共同研究を行っている「超校歌プロジェクト」のAI校歌生成プログラムを活用し、開校準備委員会の皆様方との協議・調整を重ねて、歌詞のベースとなる原案が先月決定したところでございます。

今後は、AIを活用してメロディーをつけていく予定であり、全国初、そして、おそらく世界初となるこのプロジェクトも、令和8年4月の開校に向け、地域の皆様と共に進めてまいります。

また、「桑名市総合運動公園プール整備・運営整備事業」につきましては、先月末に、伊藤忠商事株式会社様を代表企業とするグループが、優先交渉権者として選定されたところでございます。

選定委員会では、「多度学園の開校時期を踏まえて可能な限り早期に施設整備を行う提案であり、桑名市総合運動公園全体の活性化を考慮した、創意工夫がなされた特徴のある施設配置計画であった。また、学校の水泳授業を含めた幅広い利用に対応できるプールエリアの計画や、運営業務におけるサービス向上策としてDXを取り入れた工夫が計画された提案であった」との評価をいただいております。

提案の詳細につきましては、できるだけ早い段階で全員協議会の開催をお願いし、お示しさせていただきたいと存じます。

続いて、『人口問題への対応』でございます。

“できることは全てやる”との決意のもと、人口の「流入促進」「定着環境整備」「流出抑制」という3つのフェーズに着目し、対策事業を取りまとめた「桑名市人口減少対策パッケージ“14万”リバウンドプラン」に基づき、年度当初から各施策を鋭意進めているところでございます。

「移住定住補助金」につきましては、広報やSNS、WEB広告を活用したPRを進める中で、申請件数は、申請済の方と事前申請をいただいている方を合わせますと、先月末時点で計56件となりました。

年度末に向けては、お子さんの進学等のタイミングに合わせた住宅の完成により、申請が増加することが見込まれ、本市への人口流入及び定着促進に期待するところでございます。

また、若者の気持ちに寄り添った「出会い・結婚支援事業」として、マッチングアプリを活用した取組みに続き、10月には、仮想空間メタバースを活用した婚活イベントを実施いたしました。

男女計18名が参加し、7組のカップルが誕生、その後1組が実際にお付き合いをすることになったと伺っております。参加された方には、「イベント後もフォローしてもらえるのは有難い。」「メタバース空間の中で話が非常に盛り上がった。」など、好評をいただいております。年明け2月には2回目を実施する予定でございます。

また、子育てしやすい環境の整備として、8月からスタートいたしました全国初の本市独自のサービスである「選べる桑名子育てリフレッシュ事業」につきましては、現在は約40の市内事業者の皆様と連携し、70種類以上のリフレッシュプランを用意しております。

参加事業者の方からは、「子育てに忙しいママやパパを我々も応援したい」、また、利用された方からは、「出産後からリフレッシュできるきっかけをいただいてありがたい。」などの声をいただいております。

また、「子ども医療費」につきましては、9月診療分から、三重県内では初めて、高校生相当まで対象年齢を拡大するとともに、窓口負担無料化と所得制限を撤廃いたしました。

さらに、国に先んじて児童手当を市独自で拡充した「桑名市版子ども応援手当」につきましても、10月から支給を開始しております。

「経済的な不安なく病院に受診できるようになった。」「窓口の手続きが楽になった。」「高校生も手当が受給できて家計が助かる。」などの声を保護者からいただいております。事業実施の手ごたえを感じているところでございます。

全国的に少子化が一層加速する厳しい状況ではございますが、本市人口減少対策の中核を担う施策として、今後も様々な角度から子育てしやすい環境を整えてまいります。

中部エリアで子育てするなら、「桑名が一番」と言っていただけのように取組みを進めてまいります。

これまでに経験したことのない大きな変革の時代にある今、強いリーダーシップなくして新たな道を切り拓くことはできません。

引き続き、私が先頭に立って、これまで皆様と培ってきた全員参加によるまちづくりの力で、目の前の課題解決から未来に向けた挑戦まで、どんな困難も乗り越えていく決意を新たにいたしましたところでございます。

以上、これまでの11年間を振り返りながら、引き続き「信念」と、「覚悟」を持って桑名の発展に挑む姿勢について申し述べました。

議員各位におかれましても、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

それでは、今定例会に提案いたしました諸案件のうち、はじめに、人件費に係る補正予算及び条例の一部改正の議案につきまして、ご説明申し上げます。

まず、議案第97号「令和5年度桑名市一般会計補正予算（第7号）」乃至議案第102号「令和5年度桑名市下水道事業会計補正予算（第1号）」につきましては、人事院勧告の趣旨を踏まえ、職員の期末・勤勉手当の支給割合の変更、給料表の改正等を行うことによるものと、合わせて、人事異動に伴う人件費を計上いたしました。

次に、議案第 103 号「桑名市議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正」につきましては、人事院勧告の趣旨を踏まえ、国の指定職職員の期末・勤勉手当の支給割合に準じている議員の期末手当の支給割合の改正を行うものでございます。

次に、議案第 104 号「桑名市職員給与条例等の一部改正」につきましては、人事院勧告に基づき、期末・勤勉手当の支給割合及び給料表の改正等、所要の改正を行うものでございます。
よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

注) 上記の市長提案説明及び市長報告は、実際の発言と異なる場合がありますので御了承願います。
(会議録が正式な発言記録となります。)